







「ロッキンキー」の登場人物は、大抵が「ロッキンキー」の仲間である。...

「ロッキンキー」の登場人物は、大抵が「ロッキンキー」の仲間である。...

「ロッキンキー」の登場人物は、大抵が「ロッキンキー」の仲間である。...



「ロッキンキー」の登場人物は、大抵が「ロッキンキー」の仲間である。...

「ロッキンキー」の登場人物は、大抵が「ロッキンキー」の仲間である。...

「ロッキンキー」の登場人物は、大抵が「ロッキンキー」の仲間である。...

「ロッキンキー」の登場人物は、大抵が「ロッキンキー」の仲間である。...

「ロッキンキー」の登場人物は、大抵が「ロッキンキー」の仲間である。...

「ロッキンキー」の登場人物は、大抵が「ロッキンキー」の仲間である。...



「ロッキンキー」の登場人物は、大抵が「ロッキンキー」の仲間である。...

回想の「ロッキンキー」

元秘書ドナエフスカヤ女史を迎え

水田 洋

写真は来日したドナエフスカヤ女史(名古屋市原産)

「ロッキンキー」の登場人物は、大抵が「ロッキンキー」の仲間である。...

「ロッキンキー」の登場人物は、大抵が「ロッキンキー」の仲間である。...

「ロッキンキー」の登場人物は、大抵が「ロッキンキー」の仲間である。...

「ロッキンキー」の登場人物は、大抵が「ロッキンキー」の仲間である。...

「ロッキンキー」の登場人物は、大抵が「ロッキンキー」の仲間である。...

# 現代の女性と主婦

現代の女性と主婦の生活は、戦後を通じて大きく変化した。戦前は、女性は家庭の中心であり、主婦としての役割を主に果たしていた。戦後は、女性の社会進出が進み、職業女性が増え、主婦としての役割も多岐にわたるようになった。この変化は、女性の権利意識の高まりや、社会制度の整備などによって促進された。現代の女性と主婦は、自己実現と家庭責任の両方を果たすことを目指している。

**一、現代の女性**  
 戦後、女性の社会進出が進み、職業女性が増え、主婦としての役割も多岐にわたるようになった。この変化は、女性の権利意識の高まりや、社会制度の整備などによって促進された。現代の女性と主婦は、自己実現と家庭責任の両方を果たすことを目指している。

**二、主婦の生活**  
 主婦としての役割は、戦前と比べて多岐にわたるようになった。子育て、家事、社会活動など、様々な役割をこなす必要がある。また、主婦としての自己実現も求められている。主婦は、家庭の中心であり、社会の発展にも貢献している。

現代の女性と主婦の生活は、戦後を通じて大きく変化した。戦前は、女性は家庭の中心であり、主婦としての役割を主に果たしていた。戦後は、女性の社会進出が進み、職業女性が増え、主婦としての役割も多岐にわたるようになった。この変化は、女性の権利意識の高まりや、社会制度の整備などによって促進された。現代の女性と主婦は、自己実現と家庭責任の両方を果たすことを目指している。

**三、女性と主婦の意識**  
 現代の女性と主婦は、自己実現と家庭責任の両方を果たすことを目指している。また、社会制度の整備や、女性の権利意識の高まりも求められている。女性と主婦は、社会の発展にも貢献している。

## 主婦の現代的生活

### 大衆自らの手...

### 講演会

**一、現代の女性と主婦**  
 戦後、女性の社会進出が進み、職業女性が増え、主婦としての役割も多岐にわたるようになった。この変化は、女性の権利意識の高まりや、社会制度の整備などによって促進された。現代の女性と主婦は、自己実現と家庭責任の両方を果たすことを目指している。

**二、主婦の生活**  
 主婦としての役割は、戦前と比べて多岐にわたるようになった。子育て、家事、社会活動など、様々な役割をこなす必要がある。また、主婦としての自己実現も求められている。主婦は、家庭の中心であり、社会の発展にも貢献している。

**三、女性と主婦の意識**  
 現代の女性と主婦は、自己実現と家庭責任の両方を果たすことを目指している。また、社会制度の整備や、女性の権利意識の高まりも求められている。女性と主婦は、社会の発展にも貢献している。



講演会に出席する女性

**四、女性と主婦の未来**  
 現代の女性と主婦は、自己実現と家庭責任の両方を果たすことを目指している。また、社会制度の整備や、女性の権利意識の高まりも求められている。女性と主婦は、社会の発展にも貢献している。

Vertical columns of text, likely a page from a historical document or ledger, containing various entries and possibly a table structure.

定規の則

定規の則

# ア・ヤ・ドナエフスカヤ氏の 運動と理論

— その検討のために —

65.12.19.

革共同.

革マル派

9879

白紙に書き加えられたもの、学生執筆、

今日、いふまでもなく、アメリカ有象限における大衆運動と、反スターリン主義の出現について一足進歩を  
のめりながらこの一助として、われわれはここに簡単に意見を述べた。私自身としては、現在まで  
ア・ドナエフスカヤ氏の討論をうけてきており、その文章そのものの進歩をうけたもので、今日まで  
は本誌である。

この検討を果敢たるには、是非「解放」及び「別号」及び「日経」を参照されたい。

1

氏の来日は、しるしにおいて反スターリン主義の立  
場にたつて宣伝活動を中心とした反対運動を展開して  
いる人のために自然の注目という感嘆も、日本の  
運動界に一つの動向を呈している。われわれは今  
まで、反スターリン主義の契機とその理論的進歩に向  
いてはほとんど知らなかつたのであるが、ア・ヤ氏と  
しては、相互協力関係の確立と理論的進歩の歩むを  
いかに進めなければならないわけである。

ア・ヤ氏の立場は、一応「マルクス主義と自由」(川  
井と事會現代思想社)にうたがわれており、そこに  
現代運動の基盤とされる諸問題について、かなり報  
道界の同志が感じられるのであるが、さらに内容は  
ア・ヤ氏自身に対してスクロ派を中心とした賛成した  
歓迎運動が展開されているということである。

われわれは、スクロ派の一方における「運動の  
発展」の名の下での賛成した「歓迎」態度及びわれ  
われに対する象徴的プロレタリア教育を批判し、ア・ヤ  
氏の来日を通してしるしの反スター運動との内容あ  
る結合を實現するために申すなければならない  
ことは、日本における「歓迎運動」の内容にア  
・ヤ氏は、しるしの同志と反スター運動ア・ヤ  
氏の理論について簡単にのべておきたい。

## アメリカ階級闘争における 反スターリンの立場と問題

並しては、アメリカの中で、思想的に大衆的運動を  
出すだけの力量をもつものは、トロツキストと見れば  
「ニール・ヤン、スターリン」「ロシア人」など  
として、めくめくおちつていってしまつてしまつた  
階級のロシア人としての立場は、いふまでもなく  
はよくあらわれない。

一般に、アメリカにおいては、日古と見て、反ス  
ターリン主義的運動は、労働者階級、そのうち  
の立場に立つトロツキスト階級(ア・ヤ)と、連日  
連日主義の立場に立つ階級(ア・ヤ)とに分れてお  
り、また大衆において、階級は、レーニン主義的組織とその  
きまを定め、彼等は、トロツキストの立場からそれ批判的  
な場合が多い。しるしにおいては、トロツキストは  
旧スターリン派のSWP(社会主義労働者同盟)と、それが  
アメリカに普及したところから、分裂した後のSLP  
(社会主義労働者同盟)に近いグループに分れてしま  
が、二つはこれにみられない。

連日主義者主義の立場は、階級主義の立場に  
立つグループは、しるしにおいては、一た三年の級  
不可逆的の野蠻に開通してトロツキストと見れば、  
分裂を遂げてしまつた。二つは、階級主義の立  
場には、たマルクス、シヤバトマンが日本では知られて  
いるけれども、シヤバトマンは現在では、階級主義の立  
場に取り戻すスターリン主義とはいへない。シヤバトマン  
に代わつて、階級主義の立場にたつグループ(ア・ヤ)と、  
シヤバトマンと見れば、ア・ヤと見れば、ア・ヤと見れば、  
ア・ヤと見れば、ア・ヤと見れば、ア・ヤと見れば、







**日米労働者の連帯を**  
**労働者はみな兄弟だ**

【本紙記者東京三日電】日米労働者の連帯を促す「労働者はみな兄弟だ」というスローガンが、東京の労働者間に広がっている。このスローガンは、日米労働者の連帯を促すための活動の一環として、労働者間に広く普及している。

このスローガンは、労働者間の連帯を促すための活動の一環として、労働者間に広く普及している。労働者間の連帯を促すための活動の一環として、労働者間に広く普及している。

**米労働者の**  
**連帯を促す**

【本紙記者東京三日電】米労働者の連帯を促す活動が、東京の労働者間に広がっている。この活動は、労働者間の連帯を促すための活動の一環として、労働者間に広く普及している。

この活動は、労働者間の連帯を促すための活動の一環として、労働者間に広く普及している。労働者間の連帯を促すための活動の一環として、労働者間に広く普及している。



米労働者の

米労働者の連帯を促す活動が、東京の労働者間に広がっている。この活動は、労働者間の連帯を促すための活動の一環として、労働者間に広く普及している。



「マルクス主義的ヒューマニズム」の  
 著者、ルイ・アルチュセーは、この著書で、  
 ヒューマニズムの歴史を、古代ギリシアの  
 ソクラテス、プラトンの「善」の探求から、  
 中世の神学、ルネサンス期の人文主義、  
 啓蒙時代の人間論まで、幅広く考察して、  
 現代のマルクス主義的ヒューマニズムの  
 基礎を築いている。この著書は、現代の  
 思想界に大きな影響を与えている。

「現代の思想界」の  
 著者、ルイ・アルチュセーは、この著書で、  
 ヒューマニズムの歴史を、古代ギリシアの  
 ソクラテス、プラトンの「善」の探求から、  
 中世の神学、ルネサンス期の人文主義、  
 啓蒙時代の人間論まで、幅広く考察して、  
 現代のマルクス主義的ヒューマニズムの  
 基礎を築いている。この著書は、現代の  
 思想界に大きな影響を与えている。



「現代の思想界」の  
 著者、ルイ・アルチュセーは、この著書で、  
 ヒューマニズムの歴史を、古代ギリシアの  
 ソクラテス、プラトンの「善」の探求から、  
 中世の神学、ルネサンス期の人文主義、  
 啓蒙時代の人間論まで、幅広く考察して、  
 現代のマルクス主義的ヒューマニズムの  
 基礎を築いている。この著書は、現代の  
 思想界に大きな影響を与えている。

## マルクス主義的ヒューマニズムの基礎

「現代の思想界」の  
 著者、ルイ・アルチュセーは、この著書で、  
 ヒューマニズムの歴史を、古代ギリシアの  
 ソクラテス、プラトンの「善」の探求から、  
 中世の神学、ルネサンス期の人文主義、  
 啓蒙時代の人間論まで、幅広く考察して、  
 現代のマルクス主義的ヒューマニズムの  
 基礎を築いている。この著書は、現代の  
 思想界に大きな影響を与えている。

「現代の思想界」の  
 著者、ルイ・アルチュセーは、この著書で、  
 ヒューマニズムの歴史を、古代ギリシアの  
 ソクラテス、プラトンの「善」の探求から、  
 中世の神学、ルネサンス期の人文主義、  
 啓蒙時代の人間論まで、幅広く考察して、  
 現代のマルクス主義的ヒューマニズムの  
 基礎を築いている。この著書は、現代の  
 思想界に大きな影響を与えている。

「現代の思想界」の  
 著者、ルイ・アルチュセーは、この著書で、  
 ヒューマニズムの歴史を、古代ギリシアの  
 ソクラテス、プラトンの「善」の探求から、  
 中世の神学、ルネサンス期の人文主義、  
 啓蒙時代の人間論まで、幅広く考察して、  
 現代のマルクス主義的ヒューマニズムの  
 基礎を築いている。この著書は、現代の  
 思想界に大きな影響を与えている。

「現代の思想界」の  
 著者、ルイ・アルチュセーは、この著書で、  
 ヒューマニズムの歴史を、古代ギリシアの  
 ソクラテス、プラトンの「善」の探求から、  
 中世の神学、ルネサンス期の人文主義、  
 啓蒙時代の人間論まで、幅広く考察して、  
 現代のマルクス主義的ヒューマニズムの  
 基礎を築いている。この著書は、現代の  
 思想界に大きな影響を与えている。

「現代の思想界」の  
 著者、ルイ・アルチュセーは、この著書で、  
 ヒューマニズムの歴史を、古代ギリシアの  
 ソクラテス、プラトンの「善」の探求から、  
 中世の神学、ルネサンス期の人文主義、  
 啓蒙時代の人間論まで、幅広く考察して、  
 現代のマルクス主義的ヒューマニズムの  
 基礎を築いている。この著書は、現代の  
 思想界に大きな影響を与えている。

## 労働論・実践論を欠落した

### 「マルクス主義的ヒューマニズム」

### 過渡期の考察なきローヤ・ソ連論

「現代の思想界」の  
 著者、ルイ・アルチュセーは、この著書で、  
 ヒューマニズムの歴史を、古代ギリシアの  
 ソクラテス、プラトンの「善」の探求から、  
 中世の神学、ルネサンス期の人文主義、  
 啓蒙時代の人間論まで、幅広く考察して、  
 現代のマルクス主義的ヒューマニズムの  
 基礎を築いている。この著書は、現代の  
 思想界に大きな影響を与えている。

「現代の思想界」の  
 著者、ルイ・アルチュセーは、この著書で、  
 ヒューマニズムの歴史を、古代ギリシアの  
 ソクラテス、プラトンの「善」の探求から、  
 中世の神学、ルネサンス期の人文主義、  
 啓蒙時代の人間論まで、幅広く考察して、  
 現代のマルクス主義的ヒューマニズムの  
 基礎を築いている。この著書は、現代の  
 思想界に大きな影響を与えている。

「理論から革命へ」の著者である。この著者は、理論から革命へというテーマを扱っており、その内容が非常に興味深い。著者は、理論がどのようにして革命を促すのか、という問いに答えるために、この著書を書いたと述べている。著者は、理論が革命の先導となるべきであり、理論がなければ革命は成功しないと考えている。著者は、理論がどのようにして革命を促すのか、という問いに答えるために、この著書を書いたと述べている。

# 革命の理論

「理論から革命へ」の著者である。この著者は、理論から革命へというテーマを扱っており、その内容が非常に興味深い。著者は、理論がどのようにして革命を促すのか、という問いに答えるために、この著書を書いたと述べている。著者は、理論が革命の先導となるべきであり、理論がなければ革命は成功しないと考えている。著者は、理論がどのようにして革命を促すのか、という問いに答えるために、この著書を書いたと述べている。

「理論から革命へ」の著者である。この著者は、理論から革命へというテーマを扱っており、その内容が非常に興味深い。著者は、理論がどのようにして革命を促すのか、という問いに答えるために、この著書を書いたと述べている。著者は、理論が革命の先導となるべきであり、理論がなければ革命は成功しないと考えている。著者は、理論がどのようにして革命を促すのか、という問いに答えるために、この著書を書いたと述べている。

## 理論を欠落した 主観的ヒューマニズム論

「理論から革命へ」の著者である。この著者は、理論から革命へというテーマを扱っており、その内容が非常に興味深い。著者は、理論がどのようにして革命を促すのか、という問いに答えるために、この著書を書いたと述べている。著者は、理論が革命の先導となるべきであり、理論がなければ革命は成功しないと考えている。著者は、理論がどのようにして革命を促すのか、という問いに答えるために、この著書を書いたと述べている。